

社 報



再び「下足番」

試験架台を設置



高山資材センターに、支柱の試験架台を設置、アルミ角管支柱75角の試験を行いました。が、架台を設置したので、今後の開発に期待が持てます。



先月は木下藤吉郎「のちの豊臣秀吉」が、名も知れぬ下つ端時代に、織田信長の下足番を務めていて、信長のゾウリを懐に入れ温め、たいへんホメられて、それを足掛かりに、出世を成し遂げた話をしました。

私は歴史に詳しい訳ではありませんので、ただの私の想像ではありますが、木下藤吉郎の「下足番」での成功は、彼自身の人生の大きな転機であったように思います。

木下藤吉郎の身長は140cmであったと言われていています。戦国時代において、武将としての活躍を期待するには、あまりにも小さく、家督があるわけでもなく、出世の道など、望めるべくありません。

でも、木下藤吉郎は、とてつもない発想で難しい仕事を、次々やり遂げていくのです。

清州城の修築工事では、なかなかうまく工事が進まない状況を見て、自分なら一週間で直してみせる、と豪語し、一週間でやり遂げたのです。この時、藤吉郎は、職人を10組に分け、それぞれの分担を決め、修復作

業を競争させて、一番に仕上げた組には、たくさん褒美が出るぞと言ひ渡します。職人達は昼夜を問わず働ずき続け、どの組も、一週間で修復工事を完成させたのです。

そして、藤吉郎は全員に十分な褒美をと、殿様に願ひ出たということです。この後も、藤吉郎は誰もが嫌がる仕事を自ら買って出て、知恵と工夫で、成功を勝ち取ります。ついには、天下統一を成し遂げ、「豊臣秀吉」として関白職にまで登りつめたのです。

藤吉郎は、自分の欠点を知り、それを補うべく、誰もがやらないことをやらざるを得なかったのですが、それが成功への鍵となったのです。

見栄や建前ではなく、実行と成果を重視して、合理的に物事を判断して、他人とは違う成功を目指したように思います。「下足番」での成功体験が、知恵と工夫・実行と成果の基礎になったのです。

この話は有名な話で、誰もが知っていますが、「他人とは違う成功」を目指す人は少ないのです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

作業効率を上げる

作業効率を上げると言うと、安全をおろさかにしてでも、利益優先で仕事をするようなイメージがあるかも知れません。が、実はその逆だと思ふのです。

作業効率があがると、がむしゃらに、必死に動かさずとも、仕事の進み具合が早くなります。そうすると、余裕が

が生まれてきます。コストでも工程でも、品質でも、この余裕が重要だと思ふのです。余裕がないと、あらゆる事故が発生する確率が高くなります。しかし、コスト競争で負ければ、生活を失います。「余裕」=「甘い」の文化は捨てて、作業効率を上げるのです。今月も事故がありませんように。(拝)

2016年 安全成績

■ 現場災害 H28.1.1-H28.3.5	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
■ 交通災害 H28.1.1-H28.3.5	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0